

2019年12月18日・最終日総務委員長報告質疑「シンボルプロムナード・花畑広場整備」  
日本共産党 上野 みえこ

総務委員会に付託された議第177号・シンボルプロムナード・花畑広場整備の工事契約についてお尋ねいたします。

- 1、今回の契約議案に提案されているシンボルプロムナード・花畑広場整備工事の内容とその費用の内訳、事業の必要性・目的についてご説明ください。
- 2、今回の整備事業をすすめるにあたって、整備費用の縮減にはどのような努められたのでしょうか。内容と効果額をご説明ください。特殊な材料や仕様は費用にどう影響していますか。その内容と影響額もご説明ください。
- 3、今のシンボルプロムナードの舗装や花畑広場の人口芝等の工事の行われた時期と、その内容・費用の内訳をご説明ください。
- 4、産業文化会館解体も含めこれまで花畑広場、シンボルプロムナードの整備のために使った費用の総額をお示しください。
- 5、今後すすめていくシンボルプロムナード・花畑広場整備について、その内容とそれにかかる費用についてご説明ください。
- 6、本市の「公共施設等総合管理計画」では、建物と同様、道路・公園等やそれらの附帯施設についても長寿命化の対象としています。今の施設を最大限に活用し、費用の縮減に努めるべきではないでしょうか。
- 7、シンボルプロムナード・花畑広場等整備には24億円が予定されています。あらためて、現状の整備方針について、かかる費用も含め、市民への十分な説明を行うべきではないでしょうか。
- 8、今急ぎ、24億円もかかるシンボルプロムナード・花畑広場整備が必要なのか、市民の意見を聞くべきではないでしょうか。
- 9、「シンボルプロムナード・花畑広場整備」の隣地となる民間事業者所有の土地は、検討されてきたオープンスペースデザインの真ん中に位置しています。この部分は今後どのような活用がなされていくのか、所有者とどのような協議が行われているのか、現時点での状況についてお尋ねします。

7点目と8点目を市長に、それ以外については関係局長に伺います。

(答弁)

質問と答弁がかみ合っていないなかったので、再度伺います。

局長には2点あります。1つ目は、契約額の5億2000万円が何にいくらかかるのか、お尋ねした、費用の内訳をご説明願います。

2つ目は、今後すすめる花畑広場・シンボルプロムナードの整備について、かかる事業費は23億7000万円と答弁されましたが、お聞きした整備内容の答弁がなかったので、ご説明願います。

市長は、オープンスペースの設計に市民の意見を反映していると言われましたが、先ほど質問したのは、オープンスペースのデザインについてではなく、24億円もかかるシンボルプロムナード・花畑広場整備を今急いですすめる必要があるのかを市民に、意見を聞くべきと申しました。その答えをお願いします。「今後とも、さまざまな機会をとらえ、市民への説明や意見交換に努めてまいります」と言われますが、その計画はあるのでしょうか。

局長ならびに市長に伺います。

(答弁)

.....

最初の答弁で、シンボルプロムナード・花畑広場舗装・排水・植栽等の土木工事に5億2000万円の工事費がかかると説明されましたが、なぜ5億もかかる工事費になるのか釈然としません。「市民への説明や意見交換に努めてまいります」と言われますが、具体的なものはなく、これでは説明責任も、市民の意見聴取も行ったとは言えません。

花畑広場やシンボルプロムナードの舗装や人工芝の張替えに5億円を超える契約の議案が出されていると市民の方々へ説明しましたら、「なぜ5億円もかかるのですか」「数年前に整備したばかりの花畑広場の人工芝等をなぜ今また張り替えなければいけないのですか」などと言われました。24億円もかかる整備が今最優先でやるべきことなのか、今一度市民に問うべきです。

市民のみなさまが日頃さまざまに要望されている生活道路の整備は、はが

して全部やり替えても1㎡当たり5〜6000円、1万円もかかりません。今回の土木工事は、1㎡当たり5万円以上かかっていることから、単価の高い工事になっており、費用縮減と答弁されましたが、とてもそうは思えません。

今回の議会には、2021年度以降に実施が検討されている都市計画税の税率引き上げ、増税が説明されました。これについても、マスコミ報道によって増税を知った市民からは、「消費税が上がって税負担が増えている、なぜこのタイミングで増税なのでしょう」と疑問の声が寄せられています。

市が公表している今後想定される10億円以上の公共施設整備事業の見通しでは、2016年度から11年間で、約2000億円以上が使われる予定です。前市長や前々市長の時代と比べ、熊本地震の復旧費用も加わったために3倍以上の投資額となっています。桜町再開発・熊本城ホールにも多額の税金が使われ、市財政の先行きを心配する声が多々あります。今回の契約議案である花畑広場・シンボルプロムナード整備は、今回の契約額が5億2000万円、今後18億5000万円がさらに使われて、全体で23億7000万円かかると予定です。花畑広場や辛島公園・シンボルプロムナード等の整備に意見を聞くことが悪いわけではありませんが、多額の費用を使う整備事業については、契約議案として提案される前に、整備の必要性の是非、急ぐべき課題であるのかこそ、市民に問うべきです。

この場所は「中心市街地の新しい顔」と答弁されましたが、まさにそのことは、花畑広場・シンボルプロムナード整備が、桜町再開発事業の周辺整備事業であるということです。桜町再開発は、1地権者による再開発で、組合施行ならば実施できない、いわば脱法的な手法で再開発が行われました。桜町再開発と花畑広場・シンボルプロムナード整備の状況を見た再開発の専門家、本来ならば桜町再開発は、桜町・花畑地区再開発事業としてやるべきものであったと指摘されました。従前資産を活用して再開発ビルを建設し、公共の空地を生み出すのが再開発です。しかし、1地権者の再開発だった桜町再開発は、ほとんど公共の空地を生み出すことはなく、その代わりに花畑広場・シンボルプロムナードに市が莫大な費用をかけて整備しています。私は再開発事業を促進する立場ではありませんが、今回の桜町再開発は、花畑

地区も含めて再開発したならば、花畑広場・シンボルプロムナードの用地、解体された旧産業文化会館も従前資産として活用されるために、今投資しているような広場とシンボルプロムナードの整備費用がいらなかったばかりか、熊本城ホールも一部は権利床として取得することができたはずです。街の顔として立派に整備はされていても、あまりにも多くの費用をかけている点では、今回の契約議案は、手放しで喜べるものではありません。

整備地区の真ん中にある民間所有地は当面駐車場として利用されるもようですが、この部分が将来どういう形で利用されていくのかはつきりしないまま、公有地部分だけの整備をやっても、また手直しということにはならないのでしょうか。行き当たりばったりの整備であるという感が否めません。

今回の契約も含め、今後の投資についても、今一度市民への説明と合意が必要であること、費用対効果や将来負担の問題などについて、市民感覚で考え、検討していただく必要がある点を指摘して、質疑を終わります。